

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式 50問(語句選択31問 正誤判定16問 年代整序3問)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数4題・小問数50問で変化なし。語句選択問題が2問、年代整序問題が1問増加した。正誤判定問題が3問減少した。全大問とも史料を丁寧に読む必要があり、年代整序も含め試験時間60分に余裕はないだろう。

出題の特徴や昨年との変更点

大問4題中、今年度は原始・古代からの出題はなく、中世からの問題も5問のみであった。またすべてが史料問題であった。

その他トピックス

2023年秋実施の「早慶レベル模試」で、枢密顧問官美濃部達吉が新憲法に反対したことを学んでいた生徒は(69)(70)の正誤判定の際有利であったろう。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 正誤判定	中世・近世の学問と文芸 《史料》	(25)(26)は具体的な俳句や川柳の内容を知っている必要があり、難。これ以外は平易な問題が多いので取りこぼしをしないようにしたい。	やや易
II	語句選択 正誤判定 年代整序	近衛文麿とその時代 《史料》	(29)(30)「コミンテルン」は難。(41)(42)「国際連盟」はやや難。(45)(46)の年代整序は、史料の文章と語群を吟味し正解したい。	標準
III	語句選択 正誤判定 年代整序	室町～昭和戦前の琉球・ 沖縄 《史料》	沖縄に関する史料を素材とした問題だが、設問は多岐にわたる。(51)(52)「源為朝」は、(59)(60)で問われている『椿説弓張月』の内容を知らないと正解が難しい。(57)(58)も難。(61)(62)「原敬」は、(X)に小選挙区制が入ることから判断したい。(69)(70)は難。皇室典範は1907年に改正された際には官報に掲載されているため、04も正解となり得る。(71)(72)の年代整序は「アッツ島陥落」の時期判断が難しい。(73)(74)も難。	難
IV	語句選択 正誤判定	昭和戦後の内閣 《史料》	全体的に正誤判定の各選択肢が現代に関する詳細な知識を必要とするものが多かった。(79)(80)はやや難。(83)(84)は難。(85)(86)はやや難。(91)(92)「大平正芳」は難。(93)(94)「新自由クラブ」はやや難。(95)(96)は難。(97)(98)「鈴木善幸」はやや難。(99)(100)もやや難だが、消去法で正解にたどり着きたい。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

詳細な知識を問う問題が多いが、基礎的な設問の完答をめざして、教科書を丁寧に学習することが何よりも大切である。難問に対しての学習対策は不要である。過去問にできるだけ多くあたり、法学部の特徴の一つである大量語群からの空欄補充問題に対応できるよう、語群を吟味して正解に近づくなど、応用力を身につけることも重要である。また、未見史料と関連設問からなる法学部特有の出題形式にも対応できるようにしておきたい。